

日本感情心理学会第 25 回大会 プレカンファレンス 企画 1

「感情心理学研究における客観的評価手法の可能性 —潜在連合テスト, 表情の情動認知, 多次元共感性テ ストを用いた研究の知見とデモンストレーション—」

日時:2017年6月23日(金)

会場:同志社大学 今出川キャンパス 良心館

企画者:大浦真一(甲南大学)

シンポジスト: 大浦真一(甲南大学)

松尾和弥(甲南大学)

福井義一(甲南大学)

指定討論者: 稲垣(藤井)勉(長崎大学)

大平英樹(名古屋大学)

企画趣旨:

近年、心理学では、自記式尺度に頼らない客観的評価手法が開発されており、それらを用いた知見が集積されつつある。これらの客観的評価手法は、開発当初は一般的法則を抽出するために用いられてきたが、臨床心理学において、不適応に影響する個人差要因の検討に応用されることで、さらに有益な知見が得られてきている。感情心理学においても、新たな研究テーマを開拓する可能性を持っていることから、非常に有用かつ有望な手法であると思われる。本シンポジウムでは、感情心理学研究に利用可能な客観的評価手法について、3名のシンポジストから話題提供する。大浦からは潜在連合テスト(IAT)を用いて愛着の潜在的内的作業モデルの測定及び共感性や情動コンピテンスとの関連を検討した研究について、松尾からは共感性や情動コンピテンスの測定に表情の情動認知実験(ERT)を用いることの有用性について、福井からは共感性を実験により測定する MET-CORE 日本語版開発の経緯とその利用可能性について話題提供し、それぞれのデモンストレーションも行う。その上で、稲垣(藤井)氏と大平氏から指定討論をいただき、客観的評価手法の可能性についてフロアと議論し、理解を深めていきたい。